

科目番号	1403	領域区分	医療保健情報学領域	
学年	配当セメスター	区分	単位数	授業時間数
1・2	前期・後期	選択	2	30
授業科目名 (英文)	ヘルスインフォマティクス特論Ⅲ【医療経営構想論】 (Health Informatics Ⅲ: Business Model Innovation in Healthcare)			
担当教員名	駒崎 俊剛			
授業の概要及び到達目標				
<p>○概要</p> <p>適切な病院経営戦略を策定するためには、多面的な視点から自組織が置かれた状況を分析する必要があります。そこで、本特論では、医療保健分野における定量的なデータと定性的なデータの分析手法について講義と演習を通じて習得します。また、学習成果を活用し、病院・病棟マネジメントの指針（理念や経営戦略）を作成します。</p> <p>○到達目標</p> <p>(1) 政府機関から公開されている保健医療分野のデータや自院の臨床指標、市場調査などの定量的なデータを GIS (Geographic Information System: 地理情報システム) により分析できる。</p> <p>(2) SSM (Soft System Methodology: ソフトシステム方法論) や SWOT (Strengths, Weaknesses, Opportunities, Threats) 分析, BSC (Balanced Scorecard: バランススコアカード) などを用いて分析できる。</p> <p>(3) インタビューや参与観察によって得られる定性的なデータを分析できる。</p> <p>(4) 履修者が所属する組織の指針作成・活用・定着に貢献できる。</p>				
準備学習等				
<p>○事前学習課題</p> <p>学習管理システム (Moodle) から事前学習課題を提出します。</p> <p>第 1 回: 経営理念や指針策定の意義 『病院経営戦略』の「経営理念」を読み、自組織の経営理念や指針を分析する。</p> <p>第 2 回: ソフト・システムズ方法論 (第 1 部) 『ソフト・システムズ方法論』の第 1 部「SSM の誕生」と第 3 部「SSM の 2 つのモード」を読み、整理する。</p> <p>第 3 回: ソフト・システムズ方法論 (第 2 部) 『ソフト・システムズ方法論』の「第 2 部」を読み、自組織の「問題状況」を記述する。</p> <p>第 4 回: SWOT 分析 『ビジネス・フレームワーク』を読み、自組織の状況を SWOT 分析する。</p> <p>第 5 回: 中間発表 1 第 1 回から第 4 回までの学習内容をもとに自組織の問題状況を SSM や SWOT で表現し、発表準備をする。</p> <p>第 6 回: 公的機関の公開データを GIS により分析 『[オープンデータ+QGIS]』を読み、公的機関の公開データを Excel で整理する。</p> <p>第 7 回: 自院や自院周辺の市場調査データを GIS により分析 『[オープンデータ+QGIS]』を読み、市場調査データを Excel で整理する。</p>				

<p>第 8 回：会話の分析 『ことばと身体』を読み、分析に用いる現場での会話を集録し、文字化する。</p> <p>第 9 回：参与観察による分析 『ことばと身体』を読み、分析に用いる現場での人々の動きをビデオ集録または描画する。</p> <p>第 10 回：SCAT 分析 SCAT Steps for Coding and Theorization 質的データの分析手法を読み、分析に用いる文章を収集する。</p> <p>第 11 回：中間発表 2 第 6 回から第 10 回までに学習した内容をもとに自組織の現状分析について発表準備をする。</p> <p>第 12 回：BSC の活用 『ビジネス・フレームワーク』を読み、自組織の状況を BSC で考察する。</p> <p>第 13 回：分析結果の統合と指針の作成 第 1 回から第 12 回までの学習内容と事前・事後課題を整理し、指針作成の準備をする。</p> <p>第 14 回：指針定着のためのファシリテーションスキル 1 第 13 回で作成した指針のうち最も実行したいと思う内容を選び、研修計画を立てる。</p> <p>第 15 回：指針定着のためのファシリテーションスキル 2 第 14 回で作成した研修計画のうち一部分を選び、詳細な研修内容を準備する。</p>	
<p>成績評価の方法</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 授業準備学習 15% ○ 授業での発表 15% (第 5 回, 第 11 回, 第 14 回以外) ○ 授業事後学習 15% ○ 中間発表プレゼンテーション 30% (第 5 回, 第 11 回, 第 14 回) ○ 最終レポート (指針の作成) 25%
<p>テキスト</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 『病院経営戦略』, 長谷川 敏彦 (編): 医学書院 (*1) ○ 『ビジネス・フレームワーク』, 堀 公俊 (著): 日本経済新聞出版社 (*2) ○ 『ソフト・システムズ方法論』, ピーター・チェックランド, ジム・スクルーズ (著), 妹尾堅一郎 (監訳): 有斐閣 (*3) ○ 『【改訂新版】 [オープンデータ+QGIS] 統計・防災・環境情報がひと目でわかる地図の作り方』, 朝日 孝輔 (著), 大友 翔一 (著), 水谷 貴行 (著), 山手 規裕 (著): 技術評論社 (*4) ○ 『ことばと身体』, 菅原和孝 (著): 講談社 (*5) ○ 『基礎から分かる会話コミュニケーションの分析法』, 高梨 克也 (著): ナカニシヤ出版 ○ SCAT Steps for Coding and Theorization 質的データの分析手法 (http://www.educa.nagoya-u.ac.jp/~otani/scat/) ○ 『ワークショップと学び 3 まなびほぐしのデザイン』, 荻宿 俊文, 佐伯 胖, 高木 光太郎 (編): 東京大学出版会 (*6) ○ 『インプロをすべての教室へ 学びを革新する即興ゲーム・ガイド』, キャリー・ロブマン (著), マシュー・ルンドクウイスト (著), ジャパン・オールスターズ (翻訳): 新曜社
<p>参考図書</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 『学習する病院組織』, 松尾睦 (著): 同文館出版 (※) ○ 『新版 論理トレーニング』, 野矢茂樹: 産業図書 (※) ○ 『教養としての認知科学』, 鈴木宏明: 東京大学出版会 (※) ○ 『ワークショップと学び 1 まなびを学ぶ』, 荻宿 俊文, 佐伯 胖, 高木 光太郎 (編): 東京大学出版会 ○ 『ワークショップと学び 2 場づくりとしてのまなび』, 荻宿 俊文, 佐伯 胖, 高木 光太郎 (編): 東京大学出版会

	<ul style="list-style-type: none"> ○ 『ファシリテーション入門〈第2版〉』, 堀 公俊 (著) : 日本経済新聞出版社 ○ 『会話分析入門』, 串田 秀也 (著), 平本 毅 (著), 林 誠 (著) 串田 秀也 (著), 平本 毅 (著), 林 誠 (著) ○ 『会話分析の方法—行為と連鎖の組織』, エマニュエル・A・シェグロフ (著), ケード・ブッシュネル (その他), 西阪 仰 (翻訳) 世界思想社 ○ 『会話分析・ディスコース分析・ドキュメント分析 (SAGE 質的研究キット)』, ティム・ラプリー (著), 大橋靖史 (翻訳), 中坪太久郎 (翻訳), 綾城初穂 (翻訳) : 新曜社 ○ 『質的研究のための「インター・ビュー」 (SAGE 質的研究キット)』, スタイナー・クヴァール (著), ウヴェ・フリック (監修), 能智 正博 (翻訳), 徳田 治子 (翻訳) : 新曜社 ○ 『質的研究のためのエスノグラフィーと観察 (SAGE 質的研究キット)』, マイケル・アングロシーノ (著), ウヴェ・フリック (監修), 柴山 真琴 (翻訳) : 新曜社 ○ 『質的研究におけるビジュアルデータの使用 (SAGE 質的研究キット)』, マーカス・バンクス (著), 石黒広昭 監訳 (翻訳) : 新曜社 ○ 『プラットフォーム・レボリューション PLATFORM REVOLUTION 未知の巨大なライバルとの競争に勝つために』, ジェフリー・G・パーカー (著), マーシャル・W・ヴァン・アルスタイン (著), サンジート・ポール・チョーダリー (著), 妹尾 堅一郎 (翻訳), 渡部 典子 (翻訳) : ダイヤモンド社
--	---

備 考	<ul style="list-style-type: none"> ○ 学生へのメッセージ 医療や情報技術の進歩がかつてないほど速く、また患者の意識向上、価値観が多様化する状況を自組織の変革する機会と捉え、学習成果を活用しましょう。 ○ 他の科目との関連 他のヘルスインフォマティクス特論や研究方法特論の履修を推奨します。 ○ オフィスアワー 授業終了後教室で質問を受け付けます。または、オフィスアワー確認システムやDesknet's でスケジュールを確認ください。 ○ 課題 (試験やレポート等) に対するフィードバック 事前学習・事後学習について、学習管理システムを用いて添削後返却します。
-----	--

授 業 計 画

	<p>○授業進行</p> <p>学習管理システム (Moodle) から事前学習課題を提出します。授業では、講義と事前学習課題を用いたグループワークとを組み合わせで行います。これらの事前学習・授業・事後学習の成果を最終レポートや自組織で指針作成の実践に活用できるようにしましょう。</p> <p>第 1 回 : 経営理念や指針策定の意義 経営理念や指針作成のプロセスを理解する。</p> <p>◇問題状況を把握する</p> <p>第 2 回 : ソフト・システムズ方法論 (第 1 部) SSM の探索プロセス, 4 つのサイクル, 2 つのモード, 医療機関への適用事例について理解する。</p> <p>第 3 回 : ソフト・システムズ方法論 (第 2 部) SSM の関連システムの選択, モデル化, 現実の可能性との比較を理解し, 自組織の「問題状況」を用いて実際に分析する。</p>
--	--

第 4 回：SWOT 分析

外部環境分析，内部環境分析のフレームワークを理解する。

第 5 回：中間発表 1

第 1 回から第 4 回までの学習内容をもとに自組織の問題状況を SSM や SWOT により分析し，発表する。

◇外部環境・内部環境の詳細分析

第 6 回：：公的機関の公開データを GIS により分析

GIS 分析の方法を理解し，公的機関の公開データを使い，分析する。

第 7 回：自院や自院周辺の市場調査データを GIS により分析

GIS の分析の方法を理解し，市場調査データを使い，分析する。

第 8 回：会話の分析

会話分析の手法と理論を理解し，現場で集録した会話を分析する。

第 9 回：参与観察による分析

参与観察の方法と理論を理解し，現場で集録したビデオデータを分析する。

第 10 回：SCAT 分析

SCAT 分析の理論と手法を理解し，現場で集録した文章を分析する。

第 11 回：中間発表 2

第 6 回から第 10 回までに学習した内容をもとに自組織の現状分析について発表する。

◇分析結果に基づいた改善計画の作成と実施

第 12 回：BSC による計画作成

第 11 回までの分析結果をもとに BSC の 4 つの視点から改善点を検討する。

第 13 回：分析結果の統合と指針の作成

第 1 回から第 12 回までの学習内容と事前・事後課題を整理し，作成した指針を発表する。

第 14 回：指針定着のためのファシリテーションスキル 1

ファシリテーションの概要を理解し，実際に研修計画を設計する。

第 15 回：指針定着のためのファシリテーションスキル 2

第 14 回で設計した研修の一部を実施し，評価する。